



### ICAO 主催の火山灰に関する国際会議 (VOLCEX/SG) 2019 参加報告

#### (ICAO Volcanic Ash Exercise Steering Group)

##### はじめに

ICAO 主催の火山灰に関する国際会議である VOLCEX/SG は、アジア太平洋地域の火山活動をテーマとして、年 1 回実施される模擬訓練 (Exercise) の準備や、その訓練の振り返りを行います。会議の参加者はアジア各国の気象関係者や行政関係者によって構成されており、日本からも気象庁職員と航空局管制官の各 1 名が出席し、2019 年 6 月 20 日～21 日の 2 日間、バンコクの ICAO 事務所で開催されました。

この会議には、IFALPA Regional Vice President が継続して出席していますが、火山国である日本のメンバーも参加すべきという IFALPA の後押しもあり、昨年に引き続き ALPA Japan 副議長が共に出席し、パイロットの立場で IFALPA がプレゼンテーションを行うなど、貴重な意見交換の場に参加してきました。



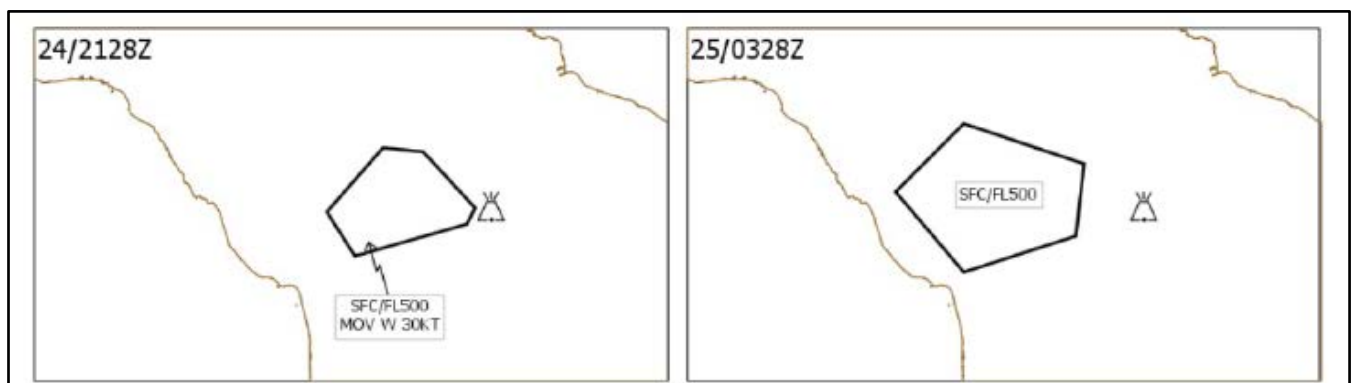
##### 火山灰通報の課題に関するパイロットからの紹介事例

この会議の直前の 5 月 24 日、インドネシアのシナブン山 (MT. Sinabung) が噴火しました。その時、気象当局が発表した火山情報が運航中の航空機に伝達されなかったことから、予報域を旅客機が通過した事例が発生しました。今回の会議で IFALPA はこの件についてプレゼンテーションを行い、問題提起と共に議論のきっかけを作りましたのでご紹介します。

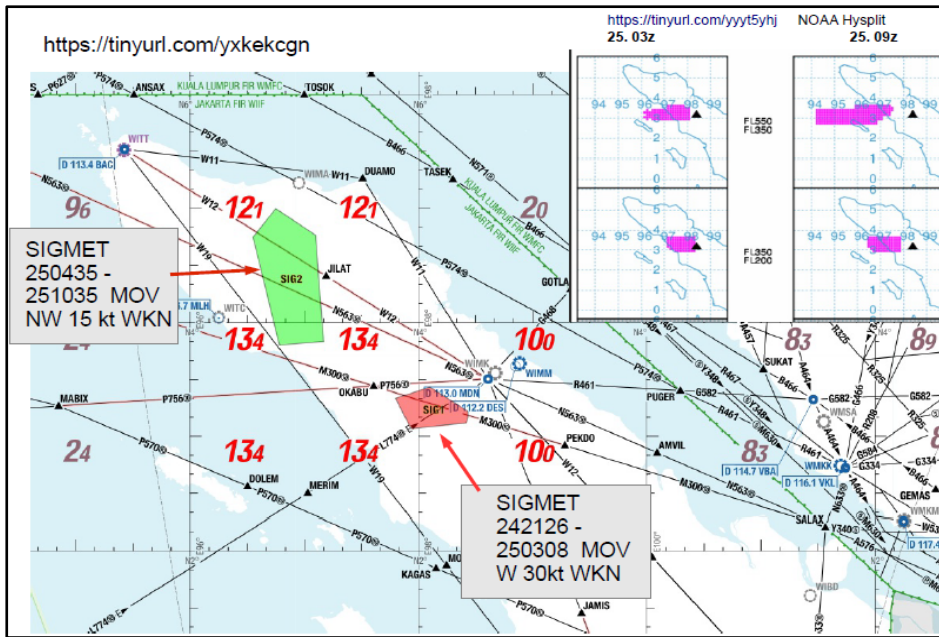
シナブン山は 2019 年 5 月 24 日 **2108Z** に噴火が確認され、**2126Z** に最初の SIGMET が発行されました。

```
WVID20 WIII 242126
WIII SIGMET 14 VALID 242126/250308 WIII-
WIII JAKARTA FIR VA ERUPTION MT SINABUNG PSN N0310 E09824 VA CLD OBS AT 2108Z WI SFC/FL500
N0307 E09825 - N0304 E09756 - N0320 E09748 - N0326 E09806 - N0313 E09826 MOV W 30KT WKN=
```

その後、噴火の 20 分後には、地上から FL500 まで拡がり、西側へ拡散する予報が発出されました。



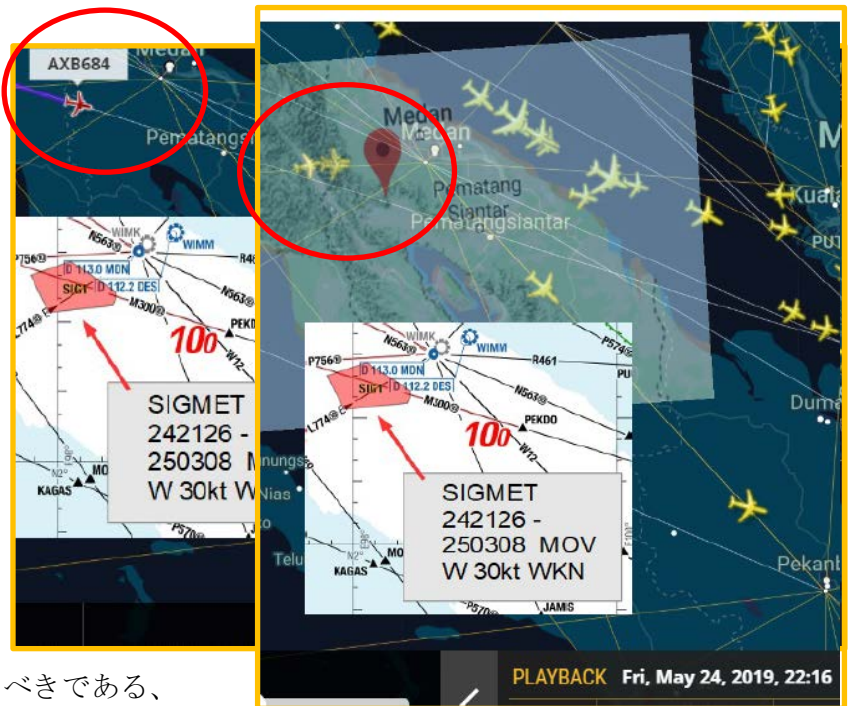
さらに、下図のような予報域に変更されました。



一方、Flight Radar の画像を予報域と重ね合わせてみると、予報域上空を航空機が迂回すること無く航空路を飛行していたことが確認出来ます（右図参照）。

この事例から学べることは、

- ① FL500 に達する規模の火山噴火の場合、予報域を必要かつ十分広く設定すべきである
- ② FL500 まで火山灰が到達する規模の火山噴火の場合、予報よりも早く火山灰が拡散していく可能性がある
- ③ 観測所からの火山噴火や火山灰の予報域などの情報は、可能な限り速やかに飛行中の航空機に伝達されるべきである、等が挙げられます。



## まとめ

パイロットの立場から紹介した今回の事例は、出席した関係者に大きな驚きとして受け止められ、多くの課題を感じたというコメントがありました。それはつまり、従来から実施している大規模噴火を想定した訓練を実施する際、実際に飛行しているパイロットの視点を共有することも大切であるということです。

次回以降の会議では、韓国と日本の航空路における火山噴火を想定した訓練も予定されています。ALPA Japan は引き続き IFALPA と協力し、この活動に取り組んでいきます。

以上